Comb & Razor / Compact Test

整容動作の左右差｜実施・集計シート

各課題30秒／左−右で表す改訂式を使用

氏名・ID：	評価日：_____年___月___日
評価者：	使用手：右・左 姿勢：_____

1｜準備と実施

頭部・顔面への到達、痛み、感覚、道具の理解を確認。くしと顔面課題を別々に実施し、左右を誘導せずに動作を観察します。

くし課題｜30秒	正面にくしを提示し、使う動作をしてもらう。
顔面課題｜別の30秒	化粧パフまたは刃を保護したひげ剃りを使用。 実施したもの：パフ・ひげ剃り・その他_____

髪型・普段の習慣・鏡の有無・変更条件：_____

2｜道具を当てた部位で数える

L＝本人の左 R＝本人の右 A＝正面など左右を判別しにくい動作

持った手の左右ではなく、頭髪・顔面のどこへ行為が向かったかを記録。対面では本人の左右と検者の左右が逆になります。

課題	L 左（回）	R 右（回）	A 判別困難（回）	合計 T
くし	_____ 回	_____ 回	_____ 回	_____ 回
顔面	_____ 回	_____ 回	_____ 回	_____ 回

3｜課題別に計算してから平均

B＝（L − R）÷（L ＋ R ＋ A）

くしのB	（_____ − _____）÷ _____ ＝ _____
顔面課題のB	（_____ − _____）÷ _____ ＝ _____
2課題の平均B	（_____ ＋ _____）÷ 2 ＝ _____

平均B ＜ −0.11：左半側身体無視を示す基準に該当。

負の値は右への偏り、正の値は左への偏り。−0.11ちょうどは「未満」に含めません。Bは重症度の百分率ではありません。

2課題の回数を先に合算しません。合計T＝0の課題は算出不能。片方が未実施・算出不能なら2課題平均を出さず、理由を記載します。

未実施・算出不能の理由：_____

左−右の式・2課題平均・判定は太田（2025）の解説に準拠。原著：Beschin & Robertson（1997）、採点改訂：McIntoshら（2000）。詳細・出典リンクは2ページ目。

整え残しから、支援を決める

追加の臨床記録／以下の内容はBの計算に加算しません。

氏名・ID：_____ 記録日：_____ 記録者：_____

1｜数えた回数と実際の動きを照合

開始側・反対側への移行	
同じ場所の反復・停止	
到達範囲・痛み・感覚・理解	

B＝0でも、正中付近だけの動作や極端に少ない動作では、整容が十分とは限りません。左右差と総動作数、課題別の値を確認します。

2｜普段の整容で確かめる

本人が終了した時の整え残し	
試した支援・声かけ・鏡など	
支援前後の変化・必要な促し	

3｜申し送り・次回の条件

記載の型：課題別L/R/A → 課題別Bと平均B → 条件 → 普段の支障 → 試した支援 → 再確認。

出典・原文の確認

Beschin N, Robertson IH. Cortex. 1997;33:379–384.
McIntosh RD, et al. Cortex. 2000;36:289–292.
太田久晶．半側空間無視のみかた．神経心理学．2025;41:80–87.
Priftis K, et al. Front Hum Neurosci. 2013;7:360.

Priftisらの右−左・百分率の式とは符号と単位が異なります。本紙は左−右のBに統一。STROKE LAB：説明・記録欄・レイアウトを編集。実施の詳細は原資料をご確認ください。